

「面積」「式と計算」

1 提案の主張点

(1) 学力の向上を図る指導と評価の工夫

算数科の学力を、関心・意欲・態度、数学的な考え方、表現・処理、知識・理解の4つの観点からとらえ、具体的な学習活動として描き出した。また、量と測定など4つの領域内の系統と、単元の、2つから学力をとらえ、構造的な理解に向かうようにした。学力を向上させるには、指導に生かす評価を充実することが求められる。授業中の児童に見られる価値ある反応を、関心・意欲・態度、数学的な考え方、表現・処理、知識・理解の4つの観点で継続的に算数カードに記録していった。子どもたちにはオリエンテーションで算数科の4つの観点の見方・考え方（めざす姿）を具体的に示した。授業中に求める姿が見られたとき、具体的によさを賞賛していくことで、どんな学び方が必要か、どんな学び方が身についてきたのかを知らせた。学習結果としての学力の向上を図る指導と評価の工夫としては、各単元の内容をカードのように整理し、カルテとして評価し、指導に生かすようにした。

(2) 子ども自らが工夫したり発展させたりする発展的学習の在り方

自ら学び自ら考える力を高めるために、子どもが工夫し発展させていける教材を選択したり、学習場面を設定したりする。

2 提案に対する意見

Q. 算数カードについてもう少し教えてほしい。

A. 授業中に評価し、学期末に得点を入れている。過程の学力として、評定の参考にしている。

Q. 6つの図形でイとエを提示した意図を教えてください。マス目のある状態で提示したのか。

A. 方形ではすき間に注目できにくいので曲線にした。すき間をしきつめられる方眼がいいんだとわかったときに、マス目を出した。

Q. 私の学校では「何がわかったのかカード」をつくっている。算数カードでは、子ども自身が、このように考えていけば解いていけるとわかってよい。授業形態はTTか少人数か。ポイントの少ない子をどのように生かすか。

A. 単元によってTTの場合もあるが終末になると課題別か習熟度別の少人数。ノートを見て、多様に式で表現している子などを個別にほめている。

3 御指導

何をどう評価するかが明確になっていないといけない。教材の本質、この単元で身につけたい力は何かを明確にしておく。

過程と結果の両面から評価し、他者から評価される自分、自分で自分を評価すること、自分ののびを知るのことは大切なこと。

評価カードに正の字があるが、何をもってかかわれているかがわかりにくい。

全体の子に身につけさせたい力もある。

方形ではうめられない図形があり、疑問が残る子がいたと思う。

どのコースを選んだ子にも満足感のある授業を組むことは大切。習ったことを使えるんだと、どの子にも感じられる展開がよい。

展開例2の中に数値が入っていない。計算の数に合うと、いいなと感じられる子もいると思う。()を使うよさについて発展的学習で扱うとよい。

評価について。指導と評価の一体化という、まさにそのことを提案していただいた。補助簿に評価を記録することは大切だが、指導との一体化という難しく感じがちである。言葉を返してあげる、そのときにその子のよさを価値づけてあげる、意識づける、そのようなことを授業のやりとりの中ですすめることが指導と評価の一体化である。

発展的な学習について。習熟度別学習指導で発展的な学習を担当したとき、十分に引き上げていないのではと困っているのではないかと思う。発展的学習とは何か。深化と拡張である。一つのことを深く考え、応用していく。遅れている子に対しての指導は十分やれているが、発展的学習についても、課題として取り組んでほしい。